

目次

目次	1
0. 平成22年度「西欧中世文書の史料論的研究」活動について	1
1. 研究会 「カロリング期の教会と国家 ―史料論からの視点―	5
丹下 栄 「カロリング期エリート論の可能性 ―カロリング期史料論のまえおきとして―	7
梅津教孝 「シャルルマーニュの文書はどのように読まれていたのか ―ミュルバク修道院宛ての2通の確認文書（772年、775年） を素材として―	13
津田拓郎 「カロリング期のカピトゥラリア ―同時代人は「カピトゥラリア」をどのように認識していたか―	20
加納 修 コメント「カロリング期の教会と国家 ―史料論からの視点―	32
森 貴子 研究会「カロリング期の統治実践とリテラシー」によせて	35
2. 研究会 「西欧中世における裁判と文書 ―訴訟と非訟裁判権―	39
岡崎 敦 「非訟裁判権とはなにか ―教会とフランス王権を中心に―	41
山田雅彦 「中世都市ミアンの非訟裁判権<jurisdiction gracieuse>に関する記録 ―シログラフから契約登記簿まで―	49
中堀博司 「両ブルゴーニュにおける公証 ―ブルゴーニュ公国形成期を中心に―	68
北野かほる 「コモン・ロー史／コモン・ロー裁判制度史のふたつの史料」	77
中谷 惣 「14世紀ルッカの裁判記録簿の史料論的考察」	95
徳橋 曜 「	100

執筆者紹介